

●きしべ・ゆうぞう

1947年生まれ。秋田市在住。獨協大学外国語学部卒業。東京銀座のプロ写真家専門のカメラ機材商社に4年半在籍。1976年、実家である秋田市大町の酒・食品問屋でワインの普及に力を入れる。1995年ワインとジャズの店「リッシュプール」を秋田市山王に開店し、20年目を迎える。1987年4月からエフエム秋田にて「ほろ酔いジャズナイト」のDJを務め、エフエム秋田史上最長寿番組として現在も継続。最近ではプロのジャズメンと共演し活動の場が広がるほか司会業も行っている。

私は大学卒業後、都内のプロ用写真機材専門商社に勤めていたが、父の嘆願で秋田市の実家、酒類卸問屋に帰ることになった。東京から私を呼び戻した父は、その年他界。昭和51年の春であつた。

獨協大学在学中はジャズビッグバンドに夢中になり、授業をサポートしては夕方から大学へ向かい、バンド練習だけは欠かすことのなかつた毎日。おかげで山野楽器主催第3回ビッグバンド・ジャズ・コンテスト（現在も続いているビッグバンドの登竜門）※で第3位に入賞した。卒業するのに6年もかかってしまったが、私の自慢話はこの

## 好きこそもの上手なれ

私は大学卒業後、都内のプロ用写真機材専門商社に勤めていたが、父の嘆願で秋田市の実家、酒類卸問屋に帰ることになった。東京から私を呼び戻した父は、その年他界。昭和51年の春であつた。

れしかない。

昭和62年正月、エフエム秋田の女子アナウンサーが訪ねてきて、秋田初のオリジナル番組を作りたいが、良いアイデアはないか？と問われ、すぐさまゆつたりと聴ける音楽番組、できればジャズ専門番組にしてほしいと頼み込んだ。数日後、「岸部さんの希望通りジャズ番組に決定しましたがパーソナリティーがいらないのでやってみませんか？番組名も『ほろ酔いジャズナイト』で決まり。4月から1回目の放送を始める」との返答だった。引き受けたものの話すことには全く自信がなく、3年間は毎週地獄の特訓だった。スタジオに入ると、発声練習や発音練習の繰り返し。原稿の言い回しも訂正され、丁寧な言葉でしゃべるよう訓練された。1時間の番組を作るのに3時間もかかった。そのおかげで5年目を過ぎた頃から自分らしさが出せる話し方になり、今の自分がある。あれから28年が経ち最長寿番組として昨年秋田魁新報にも掲載していただき、少しは明るい光を向けてもらえたとうれしく思う。

5年前に秋田市文化会館でほろ酔いのジャズライブをやってから、こんな素晴らしいプロのジャズメンといつか一緒に演奏してみたいものだと思っていたが、最近では下手ながら、ピアノの巨人西直樹、名ドラマー小山太郎とトリオで演奏できるようになった。昨年は秋田市にぎわい交流館A.U.やさきがけホールで司会とベース演奏をすることができた。まったく自分にとっては夢がかなったのかと思う。最近は毎日真剣にベースを弾く練習をしている。聴いてくださる方々に少しでも感動を与えられるよう努力をしているつもりだ。「好きこそもの上手なれ」である。

あと2年で番組放送30周年を迎えようとしている。取りあえずそこまで楽しいジャズを送り続けたいと思っている。ジャズ離れをしている世代もあると思うが、先日経営しているワインバーに来てくれたお客さまの「中学生の息子がほろ酔いジャズナイトのファンなんです」という言葉になんとうれしかったことか。

話は変わるが、近年の天候異変による災害が世界規模で起きているが、私が敬愛している食生態学者の故西丸震哉先生が30年前に秋田で講演したとき「地球は間違いなく氷河期に向かっていっているので、いざ世界規模で食糧不足の時代がやってくる。そのときのために古米、古古米でも何でもいいからとにかく食糧を貯め込んでおかないと大変なことになる。食物を輸入に頼っていたのでは、いつか麦一粒も入ってこないことが起こり得る。日本人が生き抜くためには食料自給率を上げられるだけ上げることが最も重要なことだ」と言っておられた。

地震や火山の噴火、ゲリラ豪雨、豪雪、全て西丸先生が説いていたことと一致してきていることに、不安と恐怖さえ感じる。売れ残るから減産する、ではなく未来の人間のために古くても食べられる貯蔵方法を考え出し、大量の食糧を蓄える方策を考えるJAになっていただきたい。

米がかけがえなく大切ななら、野菜をこよなく愛するなら、牛豚を我が子のように育てるのに懸命に頑張っているなら、好きこそもの上手なれ！国民のため、これから生まれてくる大切な子どもたちのため、きつと良いアイデアが生まれることと期待している。



エフエム秋田 ほろ酔いジャズナイト DJ

## 岸部 有三